

登壇者プロフィール

基調報告

笹井 宏益 (ささい ひろみ) 氏

国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部 総括研究官

【略歴】1956年生。文部省勤務を経て1995年から北海道大学助教授。1998年に国立教育研究所に移り、現在同研究所の生涯学習政策研究部総括研究官。専門は成人教育や継続教育を含む生涯教育論。1999～2000年JICA専門家としてモンゴルに赴任。以後、ノンフォーマル教育の研究者の視点から、途上国援助や教育支援にかかる問題について様々な場面で発言している。近年は、地域開発とノンフォーマル教育の普及を一体的に実現できる装置として「CLC（公民館）」に着目し、その機能分析や普及施策等について調査研究を行っている。主な著書に『成人教育は社会を変える』（玉川大学出版部 2003年）『メディアと生涯学習』（玉川大学出版部 2000年）等がある。



パネリスト

三宅 隆史 (みやけ たかふみ) 氏

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA) アフガニスタン事務所長

【略歴】1994年にSVA入職。2009年からアフガニスタン事務所長。教育協力NGOネットワーク(JNNE)事務局長、Asian South Pacific Basic and Adult Education (ASPBAE)理事、広島大学教育開発国際協力研究センター客員研究員を務めている。分担執筆した著書に『図書館は、国境をこえる - 国際協力NGO30年の軌跡』（教育史料出版会 2011年）、『内発的発展と教育』（新評論 2003年）等がある。



小荒井 理恵 (こあら いりえ) 氏

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 事業部教育協力課 プログラム・スペシャリスト

【略歴】1975年生。マンチェスター大学大学院教育学部修士課程を修了後、(社)セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ユニセフ、JICAの業務を通じアフガニスタン等の紛争影響国の教育支援に従事した後、2010年より現職。アフガニスタン、カンボジアの識字教育活動に取り組んでいる。著書に『アフガニスタン復興への教育支援—子どもたちに生きる希望を』（明石書店 2011年）がある。



佐久間 潤 (さくま じゅん) 氏

独立行政法人国際協力機構 (JICA) 人間開発部次長 兼 基礎教育グループ長

【略歴】1989 年早稲田大学法学部卒業後、国際協力事業団 (当時) 入団。本部勤務を経て 1994 年スタンフォード大学教育大学院修士課程に留学。復職後、本部勤務を経て、1998～2001 年、初中等教育アドバイザー専門家としてインドネシアに赴任。その後、社会開発部、人間開発部、人事部、JICA 客員専門員などを経て、2010 年 6 月より現職。



ファシリテーター

丸山 英樹 (まるやま ひでき) 氏

国立教育政策研究所 国際研究・協力部 総括研究官

【略歴】岡山大学教育学部卒業、広島大学大学院国際協力研究科博士課程前期修了。学術修士。専門分野は比較教育学、国際協力論、異文化コミュニケーション論。青年海外協力隊 (理数科教師)、国立教育政策研究所国際研究・協力部研究員を経て現職。現在の研究テーマは欧州移民の教育と社会統合、幅広い教育の源泉と成果。著書「トルコ移民のノンフォーマル教育による社会参加とエンパワメント」(『比較教育学研究』第 44 号)、「ESD ではぐくむ『学力』」(『ESD 教材活用ガイドー持続可能な未来への希望』) 他。



総司会

内海 成治 (うちみ せいじ) 氏

京都女子大学発達教育学部教授 大阪大学名誉教授 博士 (人間科学)

【略歴】1946 年東京生まれ。京都大学農学部および教育学部卒業。国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員、大阪大学教授、お茶の水女子大学教授を経て、2012 年 4 月より現職。おもな著書に『国際教育協力論』(世界思想社 2001 年)、『アフガニスタン戦後復興支援—日本人の新しい国際協力』(昭和堂 2004 年 編著)、『国際緊急人道支援』(ナカニシヤ出版 2008 年 編著)、『はじめての国際協力—変わる世界とどう向き合うか』(昭和堂 2012 年 編著) など。

